4 － 19　御前崎台地周辺の第四紀地殻変動

Quaternary Tectonism on the Omaezaki Terrace

国土地理院
Geographical Survey Institute

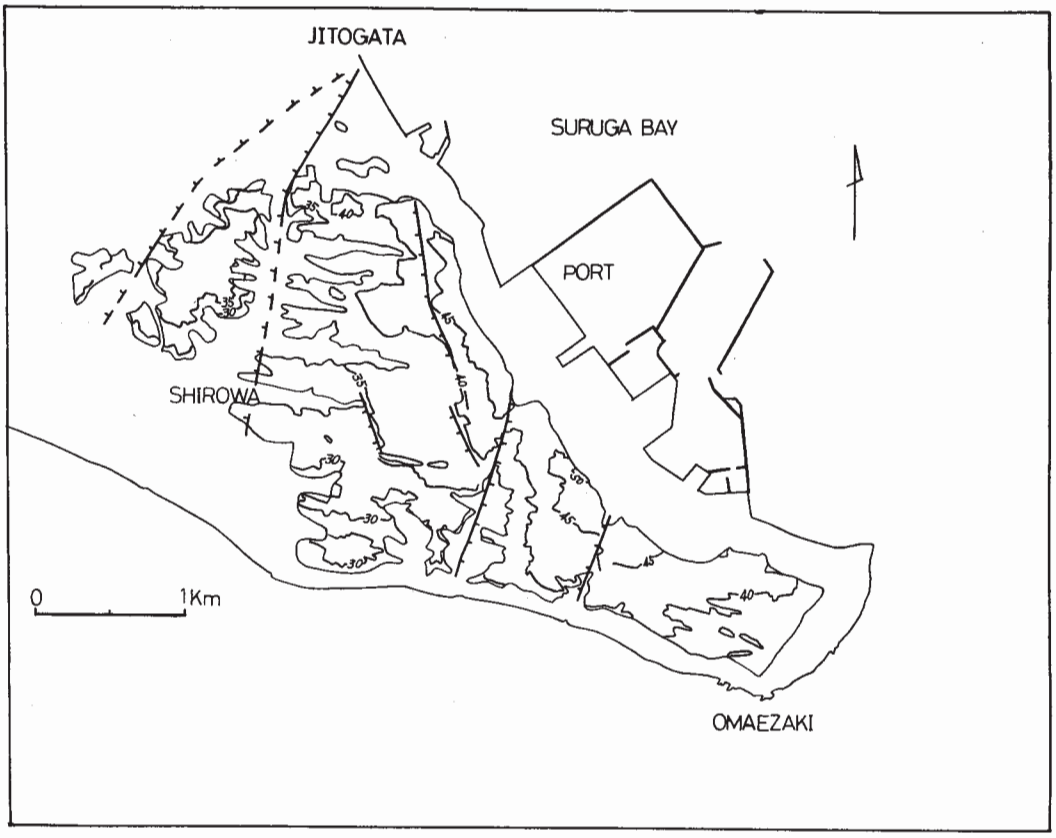
静岡県御前崎町の大部分を占める標高30～50mの御前崎台地は，第三系・相良層群の上に不整合に重なる層厚10～20mの更新統海成砂礫層 ― 白羽礫層 ― から構成されている。開析はあまり進んでおらず，台地面―御前崎面―は広く残されているが，風成砂の影響や地殻変動により起伏の多い地形となっている（第1図）。地殻変動によるものとして，断層による台地面上の撓曲崖と，御前崎港付近を中心とした隆起域があげられる。御前崎面の一般高度と隆起域最高地点から推定した相対隆起速度は，0.3～0.4m/10^3yr.（御前崎面を小原台面又は三崎面に相当するものと仮定）となる。

御前崎台地周辺の最近4年間の上下変動は，全体としては北東～東北東への傾動であるが，御前崎港付近を中心に沈降の遅い部分があり，これが御前崎面の隆起域と一致している。

参　考　文　献

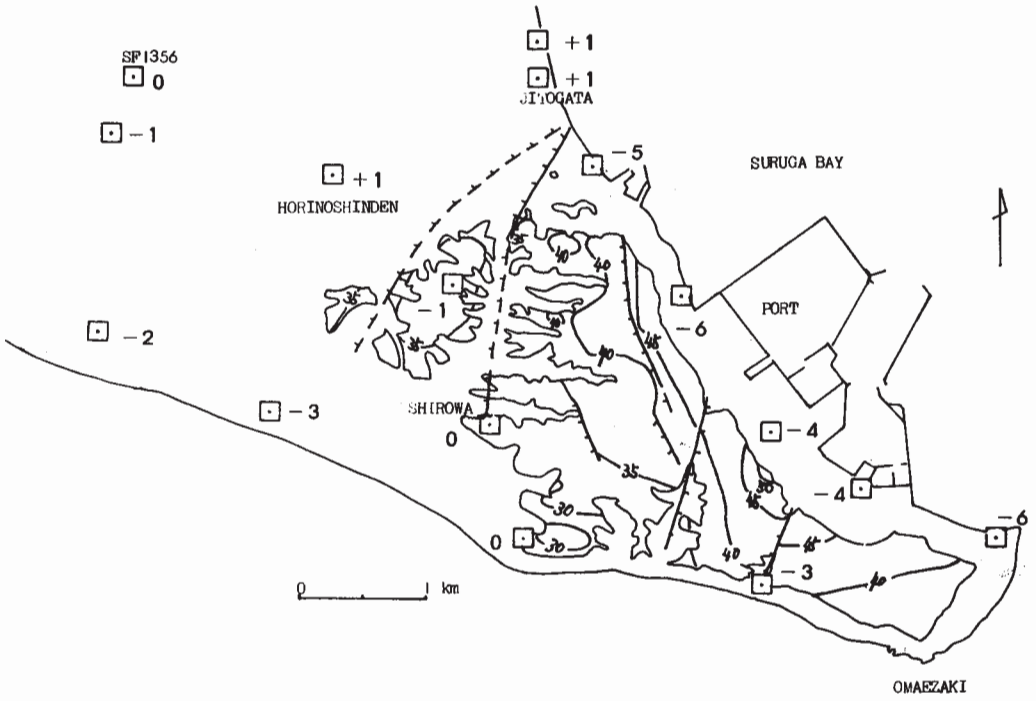
1）　垣見俊弘（1977），駿河湾 ― 相模湾における巨大地震の再来周期，連絡会東海部会資料，1－14.

2）　坂本　享，他（1978），静岡県，御前崎付近の沖積海成段丘について，地質調査所月報，**29**，2，133－135.



第１図　御前崎台地の標高と活断層

Fig. 1　Active faults and topography of the Omaezaki terrace.



第２図　御前崎面（白羽礫層堆積面）の接峰面と最近４年間（1981. 4, 5 ～ 1977. 9）の上下変動。上下変動量の単位は mm，接峰面高度の単位は m。

Fig. 2　Vertical movement around the Omaezaki plateau (1981.4, 5 - 1977.9) and summit level of the hilltop of the Shirowa gravel bed.